［た　よ　り］

兵庫県支部便り

後藤武男

昭和58年に兵庫県透析医会が原信二先生のご努力で，県下16施設を中心として出発したのがその始まりでありました。その後徐々に会員を増やし128施設181名の会員数にいたっており，現在，さらに多くの入会予定施設が日とともに増加しつつあるのが現状であります．

ご存知の如く兵庫県の広さは非常に広大であり，また淡路島地方も控え，その連携機能の充実はきわめて困難な問題でもありました．本医会は結成後常に連携を密にし，すでに藤田前日本透析医会副会長（前兵庫医科大学人工透析部教授）が主催されておりました透析研究会，腎臓病研究会，および一部泌尿器科医会とも共同し，技術的にもまた学問的にもレベルアップをこころみてまいりました．また，本県にはすでに県立西宮病院に腎移植センターが昭和40年代より設置されており，本医会とタイアップして大きな成果を重ねており，現在も努力を結集しつつあります．発会時より本医会は，原前会長のご努力で兵庫県医師会分科会として登録されており，標榜科として認められるよう常に県当局へ働きかけております．当時兵庫県では，透析医会のメンバーは前述のように，腎に関する他の学術的な研究会とオーバーラップしており，常にお互いに協力を重ねつつ現在にいたって参りました．その間透析療法の進歩は著しく，中央より平沢会長をはじめ山崎常務理事，松田理事および鈴木専務理事をはじめ各方面における諸先生においで頂きご講演とともに多くの示唆を賜り日々の診療に役だててまいりました．また同時にスタッフの研究，教育にも意をそそぎ，年2回の定期総会のうち1回は透析従事者研究会と合同で幅の広いテーマについて研究会を行っております．さらに透析従事者研究会も定期的に開催されており，透析医会より常に支援を行っているのが現状であります．

1995年1月早朝に発生した阪神淡路大地震には実に大変な試練をあたえられました．当時，被災地の中心およびその近縁の透析施設の被害は実に言語に絶する状態にありました．被災地のなかでも被害の程度が異なり，ライフライン等の機能もまちまちでありましたが，被災された患者さんの緊急治療について，その大変な修羅場での透析医会の会員およびスタッフの臨機応変の活躍は瞳目に値するものでありました．また大阪の前川前会長より翌朝早々と電話頂き，また京都および近隣の透析医会からの迅速な対応は大変な救いでありました．当時の現場とその周辺の医会会員の情報の伝達，連繋，緊急透析の実施等についてはすでに本医会の内藤，関田，寺杣，申，澤田の各会員がそれぞれ報告したとおりであります．結果として，患者さんに対して最少の被害に止まったことは多少の救いでもありました．この厳しい経験から兵庫県透析医会では，広報，情報委員会とタイアップして災害対策委員会がいち早く発足し，日本透析医会，および日本透析医学会，その他多くの団体より頂きました義援金の一部を利用させて頂き，ニフティのパソコン通信ネットワークシステムを応用して，県下の各ブロックの連携，連絡のネットワークが完成いたしました．この連携システムは40施設以上を網羅し，日々の様々な伝達事項にもしばしば利用しその効果をあげているのが現況であります．

ようやく大震災から徐々に復旧し以前の軌道に戻ってまいりましたが，昨年発生しました院内感染にはさ

兵庫県透析医会会長

らなる衝撃をあたえられました．まったく想像だにできなかった現象でもあり驚きましたが，透析医会ではただちに幹事会を緊急に開き，届け出翌日より急遽幹事会会員および感染対策委員を派遣し，国，県の技官と協調して技術面および患者サイドの問題点の対応に全力を傾倒いたしました．届け出当日より，患者さん達が収容された近隣の病院より中央へ山崎親雄常務理事を通じて状態を連絡するとともに，種々のアドバイスを頂きながら，長期間にわたり当該施設に出向し，周辺の医会会員等と協力し，現場の技術的な調整，患者の移動等に対応いたしました．当該施設は，人口20数万の広汎な地域に透析施設として僅か1カ所しかなく，周辺の施設との連携および院内の状態についての情報が比較的乏しく不明な点が多く，実態の把握が多少とも困難でありました．当時鈴木専務理事，秋葉常務理事，松田理事にもご来県頂き，以前のご経験から様々な問題点について多くのアドバイスを賜り，大変に参考になりました．その後の長期間にわたる県当局の調査の結果は本誌上に発表されたように，感染経路はなお不明確で，事実の究明が不可能とのことでありました．

この院内感染の事実により，医療に携わる施設においては防御対策をいかにすべきか，について厳しい討論が何度となく行われたことはいうまでもありません．はたしてこの対応をいかにすべきかはきわめて重要な課題であります．院内の感染に対するシステム，日本透析医会，日本透析医学会と密接に連繋しての教育，啓蒙等，エンドレスの問題と痛感する次第です．しかしながらこれらに対応するシステムを各施設のスタッフのすべてに如何にして浸透させてゆくことが可能かは難しいことであります．

以上様々な問題に遭遇しつつ本医会は，各委員会の視点により常に反趨を重ねつつ，医会の連帯の充実とともに，よりよき透析医療の実現と普遍化にいたるため意をつくしているのが現状であります．

兵庫県透析医会組織

兵庫県透析医会

顧　問	藤田嘉一	前兵庫医科大学教授
会　長	後藤武男	高砂市民病院
副会長	坂井瑠実	坂井瑠実クリニック（学術　統計，移植推進，保険，広報情報各委員会担当）， 三田寺杣泌尿器科医院（感染対策，災害対策，医療計画，庶務各委員会担当）
副会長	寺杣一徳	
幹　事	芦田乃介	芦田内科（医療計画委員）
	永井博之	尼崎永仁会病院（広報，情報委員長）
	石田正矩	石田内科クリニック（災害対策委員長　庶務委員）
	岩崎　徹	岩崎クリニック（医療計画委員長）
	江尻一成	江尻病院内科（広報，情報委員）
	中川清彦	川崎病院内科（感染対策委員）
	九鬼章尚	くきクリニック（災害対策委員）
	金津和郎	県立尼崎病院内科（学術，統計委員長）
	松尾武文	県立淡路病院内科（学術，統計委員）
	関田憲一	服部病院内科（学術，統計委員）
	安本詔夫	日高病院内科（医療計画委員）
	依藤良一	仁成クリニック（会計委員長）
	中尾一清	腎友会病院内科（広報，情報委員）
	井上聖士	住吉川病院内科（学術，統計委員）
	大前博志	原　泌尿器科病院（移植推進委員長　保険委員）
	彦坂幸治	彦坂病院泌尿器科（保険委員長）
	中西　健	兵庫医大人工透析部（学術，統計委員）
	宮本　孝	宮本クリニック（庶務委員長　学術，統計委員）
	申　曽洙	元町HDクリニック（感染対策委員長）
	吾妻真幸	六甲アイランド病院血液浄化センター（災害対策委員）